

第6学年 総合的な学習活動案

平成 14 年 11 月 26 日（火）6 校時

仙台市立長命ヶ丘小学校 6 年 1 組

授業者 教諭 今藤 正彦

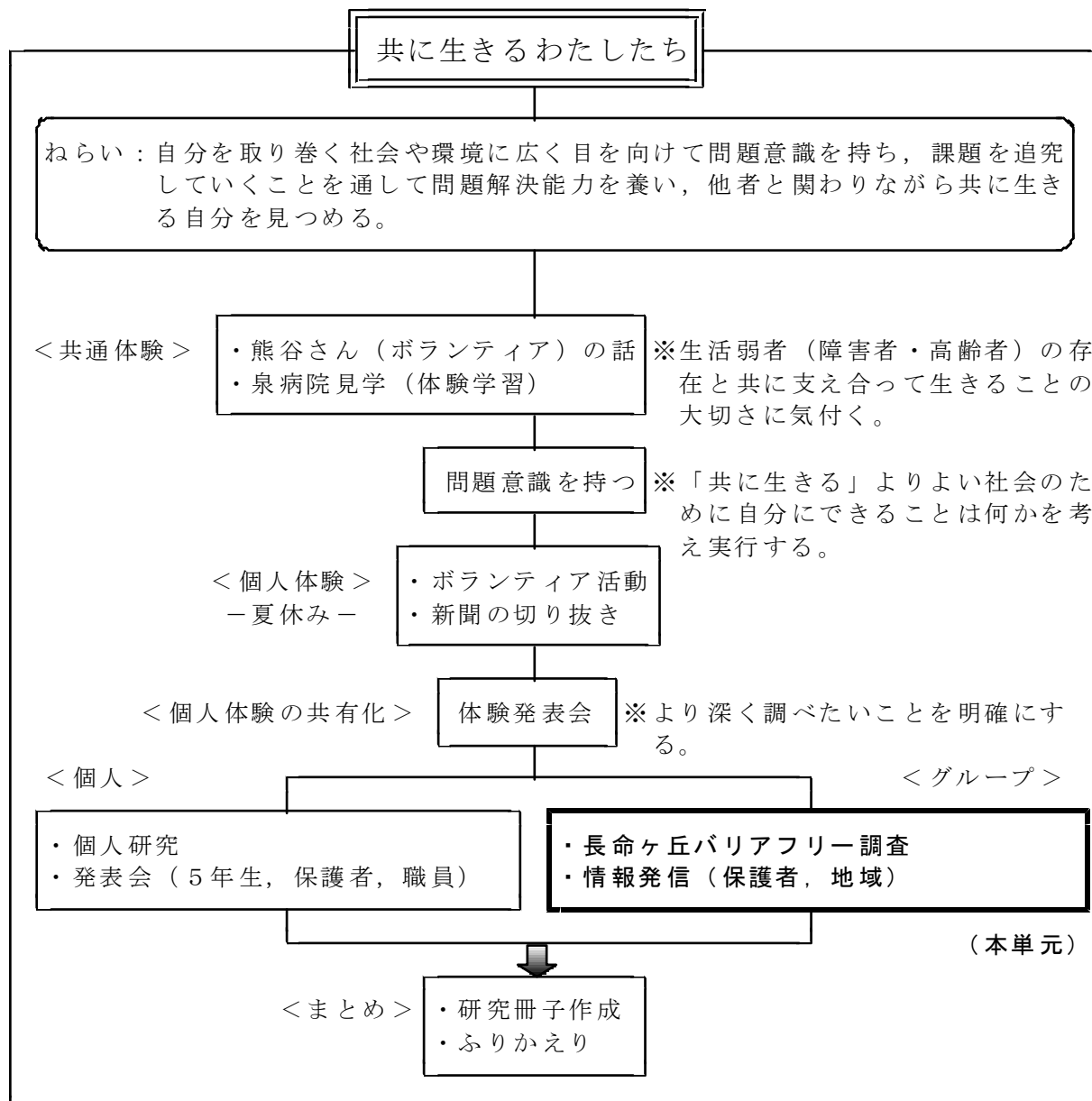
1 単元名 「共に生きるわたしたち」 ー長命ヶ丘バリアフリー調査ー

2 単元の目標

- (1) バリアフリーの視点から自分の暮らす長命ヶ丘を見直し、高齢者や障害者も共によりよく生活できる地域社会の在り方について考える。
- (2) 団地内のバリアフリー施設等取材して新聞を作り情報を発信する活動を通して、メディアリテラシーの基礎を身に付ける。

3 単元について

(1) 大単元の構想



(2) これまでの取り組みと単元設定の理由

本校6学年では、総合的な学習において「共に生きるわたしたち」を大きなテーマとして掲げている。そのねらいは、自分を取り巻く社会や環境に広く目を向けて問題意識を持ち、課題を追究していくことを通して問題解決能力を養い、他者と関わりながら共に生きる自分を見つめることにある。

このテーマにせまるために、7月に長命ヶ丘で長年にわたりボランティア活動をしてきた熊谷さんをゲストティーチャーに招いて話を聞き、自分たちの身近なところで行われているボランティア活動に目を向けた。熊谷さんは、団地内の高齢者を招いて市民センターで月1回の昼食会を開くために、前日から明け方まで献立づくりに追われた苦労話などを聞かせてくれた。また、その苦労を負担に思わずに、喜んでもらえることが自分の喜びになり、自分がやっていて楽しいとも語った。その熊谷さんに触発されて、子供たちは「ボランティア」に対する興味や関心を高めた。

また、団地内にある泉病院を見学し、4つのグループに分かれて車いす体験やリハビリ訓練、デイケアのお年寄りとの交流活動などを行った。この体験学習を通して、高齢者や障害者の立場を共感的に理解し、その人たちを支えている病院のスタッフやボランティアの人たちの存在にも気づくことができた。

こうした共通体験をもとに、「共に生きる」よりよい社会のために自分ができることは何かを考え、夏休み中に個人ごとにボランティア活動を行った。その内容は、保育所での幼児の世話や老人福祉施設の訪問、公園の清掃活動、国際交流活動への参加、募金協力など様々である。また、夏休みを通して各自興味・関心のある新聞記事の切り抜きを行い、社会の様々な出来事や諸問題に目を向け、より深く調べたいことを明確にしていた。そして現在、個人ごとに追究したい課題を設定し、インターネットや図書資料などをもとにして調べ学習に取り組んでいるところである。そのテーマは、福祉や環境に関連したものがほとんどである。

この個人研究は、各自の興味・関心に基づいてテーマを設定したので、取り組む姿にも意欲が見られる。だが、研究内容によっては、自分の住む地域をじっくりと見つめる視点が持ちにくかったり、自分の目や耳など五感を働かせて調べる活動ができにくかったりする。

そこで、「バリアフリー」という共通の視点から自分達の暮らす長命ヶ丘をみんなで見直し、団地内のバリアフリー施設を取材して新聞を作る活動を通して高齢者や障害者も共によりよく生活できる地域社会の在り方について考えるために、本単元を設定した。バリアフリーについては、建物や道路などの「物理的バリアフリー」にとどまらず、人と人とが思いやりの心を持って信頼し合える「心のバリアフリー」にも目を向けさせていきたい。また、新聞を作り情報を発信する活動を通して、メディアリテラシーの基礎を身に付けさせることもねらっている。

(3) 活動にあたって

児童は、「ボランティア」をキーワードとしたこれまでの学習を通して、福祉ボランティア、環境ボランティア、国際協力ボランティア、コミュニティーボランティアなど様々なボランティア活動があることを知り、また自らボランティア体験もしてきた。そして、世の中には解決しなければならない問題が数多くあることに気づき、個人研究を通してそうした問題について調べている。しかし、インターネットや図書資料を中心とした情報収集に偏りがちな児童が多く、自分の住む地域である長命ヶ丘や自分自身に問題を当てはめて考えるまでには至らない。

そこで、本単元においては、住み慣れた長命ヶ丘の町を「バリアフリー」の視点から見直し、新聞にまとめて情報発信していく過程において自分の目や耳など五感を働かせて調べる活動を重視していく。

まず、バリアフリーについて理解を深めて問題意識を持たせるために、「バリアフリー」をキーワードとしてインターネットで情報検索させる。その際、地元の新聞社の新聞記事データベースを活用し、地域の情報に目を向けさせたい。検索した記事は、イメージデータでプリントアウトし、掲示して情報を共有化する。また、バリアフリ

一の必要性を肌で感じさせるために、キャップハンディ体験をさせる。目隠しをして歩く視覚障害体験と車いす体験を行いたい。また、関節を曲げにくくして腕や足におもりをつけたりスモークゴーグルで視力を低下させたりする身体障害疑似体験セットも交替で使用させたい。

次に、クラスを5グループに分けて、長命ヶ丘のバリアフリー調査を行う。障害者や高齢者にとって長命ヶ丘は住みよい町であるかどうかを、実際に団地内を取材することで明らかにしていく。身障者用スロープや身障者用トイレ、点字ブロックなど目に見えやすい施設面だけではなく、歩道や建物の入り口に無造作におかれた自転車が思わぬ障害物になってることや、人と人との助け合いがバリアフリーにつながっていくことなどにも気づかせていきたい。取材を行う際には、事前に取材先に取材の可否を問い合わせるようにし、礼儀正しくマナーを守って取材にあたらせたい。また、グループごとにデジタルカメラを貸与し、写真も撮っておくようにする。

そして、取材して集めた情報をもとに、グループごとに新聞にまとめて情報発信する。新聞を作るにあたっては、事実と意見を区別して記事を書くことや新聞を通して訴えたいことを明らかにすること、取材した情報を取捨選択すること、読み手に訴える見出しやレイアウトを工夫することなどを助言する。さらに、できあがった複数の新聞記事の内容を比較・検討することで、取材した情報が正確でわかりやすいものであったかどうか吟味し、それぞれの新聞のよさや違いに気付くことができるようにし、メディアリテラシーの基礎となる力を身に付けさせたい。

4 N I Eとの関連

(1) 仙台市情報教育研究推進委員会N I E部会のねらい

活字メディアを代表する新聞を活用することで、批判的に物事を読み取る力を培う授業を実践・検証する。

(2) 「メディアリテラシーを構成する概念」と本単元におけるN I Eの取り組み

A 「メディアを選ぶ力」

社会的に影響力の大きいマスメディアを代表する新聞の持つ特性を理解し、情報入手の一手段として新聞を活用することができる力。



- ・ 家庭で購読している新聞から、「バリアフリー」に関する新聞記事を見つけて読む。
- ・ インターネットの新聞記事データベースで「バリアフリー」に関する新聞記事を検索して読む。

B 「メディアを読み解く力」(クリティカル・シンキング)

新聞記事の内容をまるごと鵜呑みにせず、記事の背景を理解し複数の情報を比較・検討するなどして自分の頭で主体的に考え判断できる力。



- ・ 各グループの新聞記事の内容を比較・検討することで、取材した情報が正確でわかりやすいものであったかどうか吟味し、情報の不確かさに気付く。

C 「メディアを使って情報を発信できる力」

新聞に投書したり新聞を作ったりするなどして、自分の持つ情報を発信して他者とコミュニケーションできる力。



- ・ 地域のバリアフリー施設等を取材して新聞を作り、できた新聞を市民センターに展示して地域に情報を発信する。

◎本実践においては、C「メディアを使って情報を発信できる力」に重点を置き、メディアリテラシーを育むうえで特に以下の4本柱を重視することにした。

- ①情報取材力
- ②情報再構成力
- ③コミュニケーション能力
- ④クリティカルシンキング（批判的思考力）

(3) これまでのNIEの取り組み（5～6年）

- ・新聞記事の切り抜き（日常的な切り抜き，目的を持った切り抜き）
- ・新聞機能学習（新聞のできるまで，新聞の特性，新聞社についてなど）
- ・新聞作り（学級新聞，個人新聞，歴史新聞など）

5 活動計画（12時間扱い）

段階	活動内容	時	評価規準
問題把握	1 「バリアフリー」について理解を深め，問題意識を持つ。	1	・バリアフリーを理解し，身近なバリアフリーに関心を持つ。
	2 インターネットで情報を検索する。（新聞記事データベース）	1	・インターネットの新聞記事データベースで情報検索し，バリアフリーについて理解を深めることができる。 ・検索した自他の情報を交換し，それぞれの情報のよさに気づいて活用する。 ・自分たちの暮らす長命ヶ丘のバリアフリーがどうなっているのか問題意識を持ち，新聞作りの意欲を持つ。
	3 キャップハンディ体験をする。（アイマスク，車いす）	1	・キャップハンディ体験を通して，バリアフリーの必要性を感じることができる。
情報収集	4 グループごとに取材計画を立てる。	1	・住み慣れた長命ヶ丘をバリアフリーの視点から見直し，取材対象を選定して取材計画を立てることができる。
	5 グループごとに長命ヶ丘の団地内を調査し，バリアフリーの施設等について取材する。	2	・団地内のバリアフリー施設を調査し，自分の目で確かめたりインタビューしたりして，事象を的確かつ正確に取材することができる。

①情報取材力

	6 取材記録を作り,感想を書く。	1	<ul style="list-style-type: none"> 取材した情報に誤りがないかどうか確認し,情報を整理する。 今まで見えなかったものが見えてくる情報収集のおもしろさに気づくことができる。
情報選択 ・再構成	7 取材した情報をもとに編集会議を開き,記事の割付や執筆分担を話し合い,見出しを工夫して新聞を作成する。	4	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報の中から,新聞記事にしたい価値ある情報を選択する。 不必要と判断した情報は,思い切って捨てる。 選択した情報をもとに記事を書き,見出しやレイアウトを工夫して読み手にわかりやすい新聞を作成することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">②情報再構成力</div> <ul style="list-style-type: none"> グループでよく話し合い協力しながら新聞を作ることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">③コミュニケーション能力</div>
情報発信	8 新聞を発表して情報を共有化するとともに,バリアフリーの視点から自分の暮らす長命ヶ丘を見直し,高齢者や障害者も共によりよく生活できる地域社会の在り方について考える。 (本時)	1	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手に分かりやすい表現に注意して発表する。 他のグループの発表を聞き,自分の考えや意見を発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">③コミュニケーション能力</div> <ul style="list-style-type: none"> 個人情報の保護に配慮して情報発信をする。 複数の新聞を読み比べて,よさや違いに気付くことができる。また,記事の内容を比較・検討することで取材した情報が正確でわかりやすいものであったかどうか吟味する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">④クリティカルシンキング</div>

6 本時の活動

(1) ねらいと評価規準

- バリアフリーの視点から自分の暮らす長命ヶ丘を見直し,高齢者や障害者も共によりよく生活できる地域社会の在り方について考えることができる。
- グループごとに作った新聞をもとに,調査結果と考察を聞き手に分かりやすく発表し意見を交換することができる。(コミュニケーション能力)

- ・複数の新聞記事の内容を比較・検討することで、取材した情報が正確でわかりやすいものであったかどうか吟味し、それぞれの新聞のよさや違いに気付くことができる。(クリティカルシンキング)

(2) 展 開

児 童 の 活 動	教 師 の 関 わ り
<p>1 本時の活動内容を確認する。</p> <div data-bbox="220 533 746 645" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>長命ヶ丘のバリアフリー調査結果を 発表しよう</p> </div> <p>2 グループごとに新聞をもとにして調査結果と考察を発表し、質疑応答する。</p> <p>3 個人ごとに各グループの新聞をじっくりと読み比べる。</p> <p>4 各グループの新聞を読み比べ、取材した情報を吟味し意見を交換することでバリアフリー調査の情報を共有化する。</p> <p>5 取材先に新聞を届けることと、市民センターに新聞を展示し地域の人にも見てもらうことを確認する。</p> <p>6 感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に各グループで作成した新聞を印刷し児童に配布しておく。 ・聞き手に分かりやすい表現に注意して発表するよう声がけする。 ・発表用に、新聞を拡大コピーしたものを用意する。 ・読み比べの視点を板書に提示する。 <div data-bbox="818 896 1066 1041" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・取材対象 ・編集方針 ・トップ記事 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・取材対象が同じなのに記事の内容が微妙に異なる点に着目させ、情報の送り手の意図によって発信した情報の内容の違いが出てくることに気づかせる。 ・意見交換に際しては、記事の誤りを強調せず、多様で多面的な考えを出させるようにする。 ・「2 c m問題」を投げかけ、障害によってバリアの見方が異なることに気づかせる。 ・身近な生活の中にユニバーサルデザインの製品があることを示し、バリアフリーの考え方が広がっていることに気づかせる。 ・道路や建物などの物理的バリアだけではなく、偏見や無知などの心のバリアもあることを知らせる。 ・事前に市民センターに了解を得ておく。 ・感想を記入するワークシートを用意する。